

平成29年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育方針

- 人格の完成をめざし、個性豊かな人間を育成する。

めざす学校像

- 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
- 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
- 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感・充実感を味わえる学校づくり）

育てたい生徒像 “3つのC”

- 創造的な人間（Creation） 基礎学力を身につけ、個性豊かで創造的な人間
- 信頼される人間（Confidence） 規律やマナーを身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
- チャレンジする人間（Challenge） 健やかな体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路指導の充実

- (1) 保育専門コース設置後6年目に入り、昨年5年目を契機として再構築した教育課程について高大接続を視野に入れながら、授業内容を精査し、平成29年度入学生を起点として、より確実に実施し、効果的な授業展開を行う。
 - ア 平成34年度から全面実施される学習指導要領の内容も踏まえ、平成29年度に改定した教育課程を確実に実施していく。また、保護者・生徒の希望する進路実現がはかれるよう、保育専門コースをはじめ、各類型での特色ある授業を展開する。
 - イ 保育専門コースにおける高大接続をより確実に図りながら、平成29年度に教育課程を精査した中で、上級学校進学後に系統的な学びになるように、本校の学習内容をより保育者にとって礎になるように整理する。特に学外で行っている実習等については、目的意識を明確に持ちながら単位修得させる内容として充実したものにする。また、学外授業を通して、成果発表の場を設け、広く府下の保育進学希望者が情報を共有できる場とする。

※保育関連授業アンケートに関する全体の肯定的回答率85%以上、ピアノ演習Ⅰ・Ⅱに関する満足度85%、保育技術検定3・4級取得率80%、保育系大学・短大等への進学率95%以上をめざす。

- (2) 教員の授業力の向上、生徒の基礎学力の定着を図る。

ア 本校のめざす授業像である「わかる」「できる」「おもしろい」を実感できる授業づくりをめざす。また、授業規律を重視し、統一した基準で授業を行うことで、全教員の授業力向上をはかる。

イ 授業アンケートや教員相互の授業見学・研究授業を充実させ、もって授業内容・指導方法の工夫・改善を図る。また、府内外の学校視察を行うことで、基礎学力充実に向けた取り組みや授業改善の方法を学び、本校にふさわしい形で導入できるようにする。

※授業アンケートを年2回実施。授業公開週間（教員相互の授業見学・研究授業）を年3回（各学期1回）実施する。

※生徒の授業満足度の肯定的回答率について3か年で15%の向上をめざす（平成28年度からの取り組みの2年目）。

ウ 改定した教育課程において、総合的な学習の時間を系統的に実施できるよう、内容を精査し、実践する。特にキャリア教育を主体に置いた内容へと作り直し、在籍する3年間の各学年における目標を明確にして、全校共通の取り組みとして認知する。その結果、社会人としての最低限の資質を身につけられるようにする。

エ 基礎学力定着に向け特に国語、数学、英語の基礎力向上に向け、各教科で学び直しの機会を設ける。特に意欲を持って取り組めるように本校独自の検定システム（平成28年度に実施）を、より明確に自己肯定感を養いながら目標を明確にさせる。

- (3) 進路指導に関する校内研修を通じて、教職員全体の理解を深めるとともに、3年間を見通した進路指導を実施する。

ア 生徒の希望する進路が実現できるよう学力生活実態調査を3年間経年実施することで自己理解力を高める。また、経年変化を追跡することで本校生の特色を理解し、学習指導にいかす。とりわけ、進路HRや進路ガイダンス、補習や講習を組織的・計画的に実施できるようにする。

※就職内定率100%を継続するとともに、進路未定率を現在の10%以下を維持していく。

※学校教育自己診断における進路指導面・充実の肯定的回答率について3年間で15%の向上をめざす（平成28年度からの取り組みの2年目）。

イ 大学進学希望者に対して、放課後を講習時間と設定して、1年から計画的に講習を実施する。また、学力不振科目を有する生徒に関しては放課後指名補習を実施することで、基礎学力の定着をはかる。

ウ 教職大学院事業とも連携をはかり、本校で実習を重ねる学生がより高校現場に積極的に参加してもらえるよう、講習や補習、生徒指導の場面を積極的に提供し、本校若手教員の指導力向上と未来の教員養成をはかる。

2 生徒指導の充実（規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ）

- (1) 全教職員が一丸となった生徒指導の推進により、基本的生活習慣の定着・改善を図る。

ア 頭髪指導の継続・強化を図り、全員染色等なしを継続させる。

イ 服装指導の継続・強化を図り、服装違反者なしを実現する。また、段階的に装飾品等の指導を強化することで、高校生らしい身なりを意識させる。

※平成28年度は女子のスカート丈及び装飾品指導を徹底し、3か年をかけて高校生として正しい服装・身なりを徹底する（平成30年度まで）

ウ 遅刻指導を継続実施する。平成26年度遅刻数の11,470名を基準として、平成29年度末には15%減少の9,750名にする（平成27年度からの取り組みの3年目）。

※登校遅刻数について平成29年度以降も大幅な増加をさせないようにする（平成28年度：8550件）

エ 授業規律（授業遅刻、中抜けをはじめ、私語や立ち歩き、机上に不要物を置かせない等）を確保し、一時間一時間の授業を大切にさせることで基礎学力の定着を図り、中退・留年を防止する。平成26年度の授業遅刻及び中抜け数7,123名を基準として平成29年度末15%減の授業遅刻及び中抜け数6,055名として、その後は維持をしていく（平成27年度からの取り組みの3年目）。

オ 生徒一人ひとりの状況把握に努め、保護者と連携しながら今生徒に何が必要であるのかを考える指導の充実をはかる。また、自分と異なる他者の存在に気づくための人権学習に力点を置き、3か年をかけて系統的に学び続けられる基盤をつくる。

カ 政治的素養を身につけさせる指導の充実をはかり、社会人としてのスキルと政治に対する正しい知識を3年間の高校生活で定着させる。そのための指導計画の充実をはかる。

- (2) 月間目標を定着し、学年に応じた施策の充実を図る。

ア 月間教育目標を策定し、全校集会を月1回実施する。また、場合によっては学年毎で目標を変えながら、学年にあった目標設定を行う。目標に対しては、3年間継続的に実施し、各分掌から具体的な取組みを実施する。自己肯定感を育成するため、月間目標に対して、表彰等を行う機会を設ける。

3 地域連携と開かれた学校づくり

- (1) 地域から愛され信頼される学校づくりを推進する。

ア 学校行事の活性化を図り、生徒が主体的に参加し、自ら積極的に行事を運営している意識づけを行う。また、PTAとも連携しながら、保護者や来賓来場者数の向上を図る。

※平成26年度の来場者人数（体育祭192名・文化祭612名）を基準として、平成29年度末には15%向上の体育祭220名、文化祭703名とする（平成27年からの取り組みの3年目）。

イ 生徒会活動及び部活動の活性化を図り、部活動入部率を1年生の段階で50%まで高める（平成27年からの取り組みの3年目）。また、地域小・中学校と連携しながら、高校生部活動加入生徒による指導の場面を提供し、地域の方々が本校へ足を運ぶ機会を増やす。

※平成28年度に実施した地域小中学生対象のスポーツ教室の維持・増進をはかる。段階的に小中学生スポーツ教室を増加させ、3年後には年中行事として認識されることをめざす。

ウ 地域連携を推進する。本校主催及び地域関連行事に関する受け入れ可能なものについては、土日での受け入れを行う。また、地域主催事業への参加や地域発信事業を継続的に実施する。

- (2) 中高連携の推進（中学校との連携を密にし、不本意入学を防止する）

ア 生徒の出身中学校全校訪問を引き続き各学期で実施する。合理的配慮を意識し、保護者との聞き取りと合わせて中学校での配慮等の聞き取りを密にすることで、生徒の困り感を把握し、3年後には意識せずとも合理的な配慮ができるようにする。

イ 中高連絡会を定期的に開催することで、本校に進学した生徒の情報を共有し、連携しながら中退防止をはかる。

- (3) 開かれた学校づくりの推進

ア 生徒会通信を活用した情報発信やHPの更なる充実をはかる。また、地元広報誌への本校行事の掲載を依頼し、地域への情報発信を積極的に行う。

また、保護者への情報発信ツールとしてメールマガジンを活用し、3年後には全ての学年でメールマガジンを活用した発信を行う。

※メールマガジンへの保護者登録数80%以上とする。また、HPは最低でも週2回以上は更新する。

イ 学校教育自己診断の分析を積極的に行うことで学校改善を図る。（評価結果を学校協議会やPTA実行委員会において協議し、次年度の学校改善に反映させる。）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒及び保護者の結果より】</p> <p>昨年度より「わからない」という項目を設け、今年度は同様の形にして2年目になる。昨年度と純粋に比較できる数値である。</p> <p>①生徒：学校へ行くのが楽しい(58.5%→59.8%△1.3) 保護者：学校に行くのを楽しみしている(70.2%→66.6%▼3.6)</p> <p>②生徒：生徒の意見をよく聞いてくれる(41.3%→44.0%△2.7)</p> <p>③生徒：授業はわかりやすく楽しい(38.8%→42.2%△3.4) 保護者：授業が分かりやすく楽しいと言っている(50.3%→48%▼2.3)</p> <p>④生徒：評価は考査以外に授業への取組みも含まれている(66%→71%△5) 保護者：色々な面から学習の評価を行っている(75.2%→76.5%△1.3)</p> <p>⑤生徒：進路の情報を知らせてくれる(55.6%→59.2%△3.6) 保護者：進路面で連絡や意思疎通をしてくれる(63.5%→63.9%△0.4) 保護者進路や職業など適切に指導してくれる(73.1%→74.1%△1)</p> <p>⑥生徒：行事は楽しく行えるように工夫されている(55.5%→59.2%△3.7) 保護者：行事に積極的に参加している(82.4%→84.4%△2)</p> <p>⑦生徒：生活に関する先生の指導には納得できる(37.6%→41%△3.4) 保護者：生徒指導方針に共感できる(61.1%→61.9%△0.8)</p> <p>⑧生徒：部活動は活発になるようにしている(38.6%→44.4%△5.8) 保護者：部活動は活発である(57.4%→63.8%△6.4)</p> <p>⑨生徒：ルールについて学ぶ機会がある(50.5%→59.9%△9.4) 保護者：ルールを守る態度を育てようとしている(69.1%→68.5%▼0.6)</p> <p>⑩生徒：人権について学ぶ機会がある(53.5%→65.1%△11.6) 保護者：人権尊重の姿勢で指導に当たっている(67.1%→65.8%▼1.3) 保護者：人権を尊重する意識を育てようとしている(64.4%→70.3%△5.9)</p> <p>⑪生徒：少人数の授業はわかりやすい(51.3%→61.2%△9.9)</p> <p>⑫生徒：プライバシーが守られている(63%→69%△6) 保護者：個人情報を守られている(86.9%→87.5%△0.6)</p> <p>⑬生徒：地域や近隣の学校との交流の機会がある(31.3%→38.5%△7.2)</p> <p>⑭生徒：施設・設備はよく整備されている(30.9%→30.5%▼0.4) 保護者：施設・設備はよく整備されている(50.1%→47.8%▼2.3)</p> <p>⑮生徒：気軽に相談できる先生がいる(43.1%→47.1%△4) 保護者：保護者の相談に適切に応じてくれる(79.7%→78.5%▼1.2) 保護者：心身の健康について気軽に相談できる(66.4%→69.7%△3.3)</p> <p>⑯生徒：将来の生き方について考える機会がある(63.2%→63.9%△0.7) 保護者：生き方や豊かな心を育てようとしている(60.8%→60.1%▼0.7)</p> <p>⑰生徒：生徒会活動に積極的に参加している(23.7%→26.9%△3.2) 保護者：生徒会活動は活発である(58.7%→62.4%△3.7)</p> <p>⑱保護者：PTA活動は活発である(70.9%→73.9%△3)</p> <p>⑲授業参観や行事に参加したことがある(53.8%→58.5%△4.7)</p> <p>【傾向と分析】</p> <p>＜生徒＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般的に向上傾向である。数値は全学年平均で算出しているため、学年毎での比較は目に見えないが、全項目とも2年生の数値が低く、1・3年生の数値が高くなっている。昨年度も現2年生が1年生としてとった結果では、低い数値となっていた。 ・特に人権意識に関わる数値が大幅に向上した。特に1年生で76.2%と高い数値となった。全校人権学習は、この自己診断実施後に行ったため、意識上は繁栄されていないが、1年生で「車椅子のキャプテン」による講演、「元車椅子バスケット日本代表選手」による講演など、全体講演を多く取り入れたことが影響している。また、年度当初には、人権意識の向上を目的として、人権に関する「アニメ鑑賞」を行った。他に、「デートDV」講演など、意識に残る講演を導入した影響が大きい。 ・生活指導面においては、まだまだ納得感という意味では低い数値である。相談体制に関しても同様に低い数値であるが、問題を抱えている生徒は直接的に関わるが、問題を抱えていない場合には関心が低い点が結果になっている。 ・部活動や生徒会活動も改善はしているものの、意欲的に参加しているケースを除き関心が低いのが結果につながっている。 <p>＜保護者＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導面では60%以上の保護者が納得感を持って頂いている。反面、家庭連絡がつきにくいケースも多く、その際に意思疎通が図れずに、調整が遅れるケースがある。全般的な数値に関しては、向上している。 ・各種行事に関しては、関心も高く80%以上の保護者は好意的に運営を見ている。反面、行事以外の部活動や生徒会活動に関しては、目に見えない部分が多いため、あまり活発に活動しているとは写っていないのが現状である。ブログのみならず、更なる情報発信の方法が必要である。 ・PTA活動に関しては、70%以上で活発ととらえて頂いているものの、 	<p>【第1回 学校協議会(平成29年6月19日(月))実施】</p> <p>＜授業について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の上に準備ができおり、1年生も落ち着いていて驚いた ・寝ている生徒や欠席している生徒も少なかった ・生徒と教員が対話をしながら授業を進めており、コミュニケーションができています ・生徒と教員の関係なのだから、言葉を選んで「なあなあ」にならないように留意する必要がある ・寝ている生徒は少ないが、やはり寝ている場合には注意して欲しい ・授業中に煩くしている生徒もおり、しっかりと注意をして進めて欲しい ・少しずつではあるが、指導の成果が出た授業になっている <p>＜学校の状況について＞</p> <p>登校遅刻・授業遅刻・途中退室における指導の実際を説明した後、大まかな全体の生徒指導や進路状況に関する説明を実施。(主に生徒指導関係は、遅刻・頭髪・装飾品指導の現状を説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の進路決定時期が早まっているが、進路が決まった生徒を見て周りの生徒は焦っている様子はないか →傾向はどれも同じような状況ではあるが、安易な進路決定をしないように粘り強く指導をしている ・科目数が多い一般入試を避けて、科目数が少なく合格を早く決めることができる指定校推薦を選択しがちではないか。その際、本来の志望先を選択できているのだろうか →傾向はその通り。本来であれば、一般入試まで頑張りたいところではある。指定校がダメであれば公募制まで頑張っているケースもあるが、本来ならば志望を最後まで変えずに一般入試まで粘って欲しい <p>＜教科書の閲覧＞ 別途閲覧</p> <p>＜学校経営計画について＞</p> <p>保育専門コースの現状、高大接続、子どもまつりの実情、教育課程の変更について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育専門コース以外にも力を入れて欲しい →進学者のために月・水のノー会議デーも設定し、講習しやすい体制にしている <p>＜意見交換より＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSL(島本スタディラボ)への参加生徒が少ないのに部活動自粛をしているのか。そうすることで、部活動も講習も参加しなくなるのではないか →部活動に加入している生徒や生徒会活動をしている生徒が主にSSLに参加しているため重複を避けている。今後、生徒の参加状況を見ながら工夫していく。また、部活動などは試合前などは相談しながら行っている ・生徒が進路目標を下げがちになっているのではないか。教員が多忙のため、対話が減り、このことが原因になっているのではないか →多忙なことは間違いない。そのための月・水のノー会議デーでもある ・中退数が大幅に減っているのだから、遅刻数をもっと減らせるのではないか →更に減少させたい ・安易な進路決定をせず、見通しを立てて進路決定できるように指導してほしい →大学に入学したものの、学校を継続することが困難な生徒もいる。費用面等も含め、しっかりとマッチングしていきたい <p>【第2回 学校協議会(平成29年11月27日(月))実施】</p> <p>＜学校経営計画進捗状況について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況について口頭にて説明し、3回目で改めて達成について検討して頂くこととなる <p>＜学校概況について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭髪指導について質問があったが、段階的な指導をしている実態について説明し、方法については理解してもらった ・遅刻状況については、状況を説明し理解していただいた ・進路状況について説明し、やはり指定校など早く決定する生徒が多い状況について、共通認識を持った <p>＜音楽祭・芸術祭について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の役割がもっと明確になっていても良い ・もっと生徒の出番を多くしたり、保育専門コースの色を出しても良い →保育専門コースの発表会ではなく、あくまでも芸術発表である趣旨を説明 ・しっかりと取り組んでいた <p>＜学校教育自己診断について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計データについて示し、次回の学校協議会にて協議する内容として提示した <p>＜学校運営協議会について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度からの学校運営協議会について主旨説明をし、理解して頂いた <p>＜意見交換より＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育専門コースなどについては、もっと広報活動を上手にしていく必要がある →塾等では本校に保育専門コースがあることを認識していないケースもある。また、中学でも担当が変わると、本校について理解が薄い場合がある ・町内の掲示板等を有効活用して、本校での取組みについて、もっと広報をしていく必要がある。 <p>【第3回 学校協議会(平成30年1月29日(月))実施】</p> <p>＜学校運営協議会について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変更主旨説明。委員選出の確認と次年度の承認事項の確認を実施 <p>＜授業見学について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ演習I(2年生)、地理A(1年生)、(学)Basic English(1年)の授業見学を実施し、授業の様子を確認 ・ピアノ演習Iについては、見学中にピアノ台数や授業内容について説明を実施 <p>＜平成29年度学校教育自己診断について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の結果として、全体的に低い数値となっている。「教員が意見を聞いてくれる」「授業が分かりやすく楽しい」「生徒会活動に積極的に参加している」「部活動活性化に取り組んでいる」「先生の指導に納得できる」「地域との交流の機会がある」「施設・設備が整備され

府立島本高等学校

P T Aに関する行事への参加が非常に少なく、アンケート結果との相関性が見えない。今年度は、校内ソフトバレーボール大会や笑い文字講座など、新しい取り組みも実施しているが思ったように参加者が増えないのが現状である。そのため、今後も継続して方法を講じる必要がある。

・部活動に関しては、加入者が40%未満と少ないため、加入していない保護者にとっては関心が薄い。更なる加入に向けて、ブログ等を通じて情報発信をして周知していきたい。

・進路指導に関する情報発信に関しては、63～74%と比較的安定した結果となっている。反面、情報量が少ない、意思疎通をして欲しいという意見があるのも確かなため、行事予定を含めて可視化していく方法を考えていく必要がある。

【教員の結果より】

教職員に関しては、絶数的に53名と少ないため、結果については1名の増減が大きな数値変化となって現れるので、一概に増加・減少で一喜一憂するものではない。しかしながら、

・10%以上の減少があった項目である「生徒指導において、警察や子ども家庭センターと連携している」「奨学金について説明している」「適正・能力に応じて校内人事や校務分掌が行われている」「教職員間の相互理解がなされている」「他教員の授業を見る機会がある」「研修や研究について教職員に伝える機会がある」「情報について地域・保護者への発信に努めている」などは、70%を切り50.9%となっている「研修や研究について教職員に伝える機会がある」については、月の2度の職員会議を有効活用していきたい。

<各項目での比較>

大幅な変動があったもの（10%以上）について記載する。

- ①教材の精選・工夫を行っている(87.5%→98.1%△10.6)
- ②警察や子ども家庭センターと連携している(92.9%→77.4%▼15.5)
- ③奨学金制度について説明している(83.9%71.7%▼12.2)
- ④教職員が意欲的に取組める環境にある(78.6%→64.2%▼14.4)
- ⑤教職員間の信頼関係がある(80.4%→69.8%▼10.6)
- ⑥他教員の授業を見学する機会がある(96.4%→84.9%▼11.5)
- ⑦成果を教職員に伝える機会がある(62.5%→50.9%▼11.6)
- ⑧情報を保護者や地域に発信している(92.9%→73.6%▼19.3)

全49項目について実施しているが、特に大きな変動をしたものである。

ている」などについて説明。保護者回答についても、全体的に低い数値となっている、授業が分かりやすいと言っている」「部活動に積極的に取り組んでいる」「施設・設備がよく整備されている」について説明を実施。課題として「授業力アップ」「校内美化」「授業改善」「授業規律」などを挙げ確認した

・学校に行くのが楽しいとする割合は全体の6割になっているが、2年生での数値が低い理由は何か

→1年生の時から低い数値で推移している。また、ここ5年間程は2年生で数値が下がる傾向がある。また、少なからず制服変更があり、指導面で3年生と異なっていることが理由としても考えられる

・施設の老朽化について、私学と比較すると良くない印象を受けるが、対策として方向性はあるのか

→日々の清掃の徹底を行うしかない。芸術作品の展示なども増やすことで、綺麗にしていくことも考えている

・高校では清掃はしないのか

→清掃がしているが指導が徹底できていない面もある。清掃指導についても、根気を持って取り組むことが必要であると考えている。全体で統一してしっかりと行わせることも次年度以降対策として考えていきたい

・ターポリン素材で作成した横幕など、見栄えが良くて学校のイメージを持ってもらえるようなものを作成していくことも必要ではないか

・生徒も、校舎内が汚いという意識を持っている生徒もいる。教員も協力しながら「綺麗にしよう」と一緒になって考えていければいいと思うし、教育の一環として行って欲しい。学校全体として清掃に取り組む雰囲気をつくって行けばよい。また日々自分たちが使っているという意識づけを行い、同時に「何で自分だけ清掃しなければダメなのか」という考えにならないような方策が必要である。

・中学時代にはしっかりと清掃も行っていたはずである。中には、中学で指導を受けられなかった生徒もいるかも知れないが、丁寧に説明をしながら納得させていく必要がある。

・若手教員の育成は中学校でも課題であるが、メンター方式で育成をしている。抽象的な指導ではなく、具体的な方法で指導することで、さまざまなことを伝えている。島高の先生は良く頑張っているのだから、どんな指導でも粘り負けしないで欲しい

・アンケートの中に「〇〇して欲しい」という意見が多い。自分たちでできる「欲しい」というものもあるので、そこを拾い上げて生徒自らが行動できるような仕組みを考えて欲しい

・学校全体の雰囲気は非常によくなっている。感想や意見の中には厳しいものもあるが、もうひと踏ん張りして、生徒たちが喜んで通える学校づくりに取り組んで欲しい

<生徒指導方針について>

・懲戒指導や生徒指導方針（内規や合格者のしおり掲載の内容等）を提示して、本校の生徒指導方針や内容に関して確認し、了承頂いた

・生徒への周知方法はどのような方法か

→新入生には合格者説明会の時に、保護者・生徒に対して実施している。また、入学後の新入生オリエンテーションでも再度説明をしている

・きめ細やかに指導を行っている中で、染髪する生徒はいるのか。また、染めることは保護者の問題でもあるが、どう考えるか

→夏季休業後に染める生徒はいる。改善はしているが、中には「地毛登録」をしている生徒も含まれる。その際には、手を入れているので指導を行うことになるが、しっかりと説明して、最後には改善して登校している。他の規則についても、きちんとして欲しいという思いがあるので、家庭の協力を得られるように周知していきたい

・地毛登録も含めて、学校として保護者に「指導に従います」と紙面等で確認をとることはできないのか

→入学時には「確認書」を記載してもらっている。

・化粧についての指導はどうなっているか。進学や就職で不利になることを気づかせて欲しい

→指導方法を含めて検討しているが、なかなか統一指導まで踏み切れていないのが現状であり、今後の課題でもある

・世間では頭髪に関して色々問題になっているが、人権的な側面もあったと思う。かつては、染髪していた生徒もいたが、現在ではほとんど見られない。見栄えだけではなく、社会性育成の面でも必要なことで、重要なことと思う

・グローバル化に伴い、外国では化粧やピアスなど自由な国もある。そんな中で生徒は反発することもあるかも知れないので、丁寧な説明が必要であるが、引き続き取り組みを推進して欲しい

・生徒に説明する際に、紙面に「目的」「必要性」が明記されており、周知に力を注いでいるのがわかる。教員間でも指導目的を再度確認して、足並みをそろえて欲しい

<平成29年度学校評価(案)>

・2度目の提示であるが、内容について確認を行い、意見聴取を依頼

<平成30年度学校経営計画(案)>

・主旨や方針について概要説明

・平成30年度の学校経営計画については、本協議会での承認が必要になるのか

→承認が必要になるのは、平成31年度の学校経営計画からである

・新規のものもかなりあるので、是非軌道に乗せて欲しい

・継続の取り組みについては、是非ブラッシュアップして欲しいし、新規のものであっても、これまでの流れを引き継いでほしい

・中学校でも2021年度から新学習指導要領が全面実施される。大学入試センター試験が新テストに変わることで、それに対応できるように育成することが課題である。是非、次年度の経営計画に記されている「課題解決力を身につける」ため、教師主導型ではなく生徒主体型の授業への取り組みを行って欲しい。上手く生徒の力を伸ばせるよう今後も取り組んで頂きたい

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と進路指導の充実	<p>(1) 授業内容の精選と高大接続 ア 授業充実及び授業規律の徹底(新規)</p> <p>イ 保育専門コースの授業内容の整理及び改変(新規・継続)</p> <p>ウ 保育専門コースの高大接続の推進(新規・継続)</p> <p>エ 総合的な学習の時間の整理とキャリア教育の推進(継続)</p> <p>(2) 授業力向上と基礎学力の定着 ア 授業力向上(新規・継続)</p> <p>イ 生徒参加型授業の推進(新規)</p> <p>ウ 教科による学び直しの実施と島本検定(新規)</p>	<p>(1) ア 授業規律の徹底を全校統一基準で実施する。授業規律を徹底することで、授業を楽しく感じられる環境をつくる。(新規) ・生徒が主体的に参加できるような授業の組み立てを考え、積極的に授業公開を行う。(新規) ・生徒がわかりやすいと思えるような授業構成を授業充実議を中心に考え、共通認識のもと、積極的に情報発信を行う。(継続・新規) イ 保育専門コースの授業内容について、現在ある科目を総合的にとらえられるように、組み直しを行い、シラバスを完成させる。(新規) ・外部における保育体験実習を実施するうえで、評価指標を明確にし、学校全体で保育実習の評価ができるようにする。(新規・継続) ・平成29年度入学生より変更した保育専門コース生の授業内容を確立し、保育者としての礎となる資質を養える授業内容とする。(新規)</p> <p>ウ 高大接続を考慮し、保育系短期大学及び大学より教授、学生を迎えての授業を実施し、高大が共通の意識で保育者を育成できるよう、学びの共有をはかる。(新規) ・ピアノの講習等に関しては、連携している大学や短大から学生を募り、将来の自らの姿を見せることで、保育者としての意識を向上できる取組とする。(継続) ・学外単位の修得に関し、大学施設を活用した取り組みを増やし、高校外の施設で学ぶことで、一貫指導につながるようにする。(継続)</p> <p>エ 平成29年度入学生より総合的な学習の時間が各学年1時間になることに伴い、3年間を見通した「総合的な学習の時間」の在り方を想定し、効果的なキャリア教育を実践する。(継続・新規) ・3年間を通じた人権学習の枠組みを人間力の育成ととらえ、1年から順次人権学習の方針を徹底し、現代社会を反映した学びとする。(新規)</p> <p>(2) ア 授業力向上に向け他校視察により、充実した授業改善及び教科会議において、本校の各教科の授業の在り方を議論する場を設定し、より生徒がわかる、楽しい授業を行う。(継続・新規) ・各教科が柔軟に話し合える曜日を設定し、教科内での意思疎通、授業改善の方策を話し合う時間を確保する。(新規)</p> <p>イ 生徒参加型授業の実践例として、関連書籍を職員室に配備し、気軽に教材研究できる環境を整える。(新規) ・生徒が主体的に学べる参加型授業の割合を増加させる。また、生徒同士が効果的に対話しながら自ら課題解決を図る仕組みを構築する。(継続)</p> <p>ウ 総合的な学習の時間から切り離し、各教科の時間内で学び直しの時間を確保し、定点測定することで、効果検証を行う。また、国語、数学、英語の授業内で行う結果を平成28年度に実施した島本検定に読み替え、年間を通して、基礎力の向上をはかる指標とする。(新規)</p>	<p>(1) ア 授業が分かりやすく楽しいとする割合を70%以上とする。(H27:51.3%、H28:38.8%) ・授業改善によって、学校に行くのが楽しいとする割合を70%以上とする。(H27:68.5%、H28:58.5%)</p> <p>イ シラバスを完成し、学外実習として実施する「実習保育」の評価基準を確立する。(新規事項のため平成28年度指標なし) ・2年生以上で学んでいる内容を統合し、保育5領域「健康・人間関係・環境・言葉・表現」をバランスよく学べる内容にする。(新規事項のため平成28年度指標なし)</p> <p>ウ 大学教授の授業や学生による指導が楽しく、わかりやすいとする割合を90%以上とする。(新規取り組みのためH28実績なし) ・ピアノ講習を通して技術が上達し、授業が楽しい、積極的に参加しているとする割合を90%以上とする。(H28:91.1%) ・大学施設活用後のアンケートを通して、面白い、授業が楽しいとする割合を90%以上とする。(H28:89.8%)</p> <p>エ 総合的な学習の時間が楽しい、やりがいがあるとする割合を80%以上とする。(H28:74.7%) ・将来の生き方について考える機会があるとする割合を70%以上とする。(H27:62.7%、H28:63.2%) ・人権について学ぶ機会があるとする割合を65%以上とする。(H27:62.6%、H28:53.5%)</p> <p>(2) ア 愛知県、鳥取県について福井県での学校視察を行い、授業改善への取組を共有し、実践に活かす。(福井県へ3名派遣する) ・教科内での意識統一を図るため、週に2日ノー会議デーを設定し、うち1日を情報共有の時間として確保する。</p> <p>イ 教科を問わず、職員室内に教育に関する書籍を配備する場所を設置し、授業を工夫したとする割合を85%以上とする。(H27:70%、H28:80.4%)</p> <p>ウ H28に取り組んだ島本検定を各教科(国語、数学、英語)の中に取り込み、基礎力として向上させている小テストの点数を年間通して累積し、島本検定に置き換えて実施する。検定の級・段位取得率について、上位者を多くする。(H28:6段以上24.1%)</p>	<p>(1) ア 授業規律については、ある程度徹底できている。各教員の授業工夫についても、ICTの活用や随所に調べ学習を入れるなど行っているが、積極的な参加までは繋がっていないため、数値的に大きな伸びが期待できなかった(△)。(H27:51.3%、H28:38.8%、H29:42.2%) ・授業改善をキーとして割合の向上を図ることを目的としたが、基本的な生活習慣の確立を含め、生徒指導上の問題も加味されるため、改善だけの上積みは難しいものがあった。(△) (H27:68.5%、H28:58.5%、H29:59.8%) イ 平成30年度2年次における保育専門コース生新科目のシラバスに関しては完成し、移行しながら本年度も実施している。また、実習保育に関しては、体験活動の中に評価項目を設け、実際に評価を行った。また、保育5領域をバランス良く学ぶための内容精査を行い、平成31年度3年次へ繋ぐための内容整理を行った(○)。(まだ、未実施のため、内容精査は今後)</p> <p>ウ 複数の大学から教授、学生に来校して頂き保育系授業を実施し、継続の意識を持った授業を行うことができた。また、学外でも大学生との繋がりを持つことができ、意欲的な姿に変貌している(○)。(H29:91.4%) ・大学生講師の招へいにより、技量に沿った指導ができていたため、個人のペースで実施でき楽しく参加している(○)。(H28:91.1%、H29:80.6%)</p> <p>・大学施設を活用することで、大学の学びと自らの学びを結びつけることができていた。特に保育系交流会では、さまざまな意見を聞くことで、自らの保育に対する意識を広げることができた(○)。(H28:89.8%、H29:91.4%)</p> <p>エ 総合的な学習の時間を変革して2年目に入り、1年生は軌道に乗りつつある。担当者が担任としたため、HRとのメリハリの面でデメリットがあり、今後の課題も残っている(△)。(H28:74.7%、H29:63.9%) ・3年次では社会を意識した1年目の活動であるため、試行錯誤であったことは否めない。その中でも、生徒発表の機会を設けるなど、次年度以降に向けた形は構築できた(△)。(H27:62.7%、H28:63.2%、H29:63.9%) ・年度当初に人権映画、低学年では障がい者意識した講演を実施することで、意識は高まっている。また、12月実施の全校人権学習でも手話を通して、さまざまな人と友に生きていることを認識できた(○)。(H27:62.6%、H28:53.5%、H29:65.1%) ア 福井県に3名の教員を派遣し、生徒指導及び学習指導面における取組を把握し、職員会議にて報告を行い、次年度実施に向けた精査を行い、学年進行での実施を図る計画である(○)。(H27:愛知県へ3名、H28:鳥取県へ3名、H29:福井県へ3名) ・2日のノー会議デーについては1年間を通して実施し、特に月曜日は講習指定日として根付いた。水曜日に関しては、更に講習日として設定する方向で反省し、次年度に向けて改善を図っている(○)。(H29:完全実施)</p> <p>イ 職員室内に教育に関する書籍を整備し、新学習指導要領に対応できる授業改善のための学びの環境を創出したが、結果的には授業を工夫したとする割合はさほど高くはならなかった(△)。(H27:70%、H28:80.4%、H29:73.6%)</p> <p>ウ 学び直しを各教科へ取り込み、それぞれ国語は漢字テスト、英語は単語テスト、数学は基礎計算力の向上として単元の始めに実施している。反面、各教科での取り込みとなったため、全ての科目の点数の合算により検定として認可するには、困難な点が出たため、置き換えについては実施せず、各教科内での結果を共有し、個々人のやる気向上に努めるように変更して実施した(△)。(H28:6段以上24.1%、H29:教科の性質上統計せず)</p>

府立島本高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成と進路指導の充実</p>	<p>(3) 進路指導の充実 ア 学力生活実態調査及び業者テストの再構築(新規・継続)</p> <p>イ 進学希望者に対する進路講習の充実及び成績不振者指導の充実(新規・継続)</p> <p>ウ 系統立てた3年間を見越した進路指導の推進(新規・継続)</p> <p>エ 保育専門コース生の保育系への進学率向上(新規・継続)</p>	<p>(3) ア 学力診断テストの枠組みを変更し、進学希望者にも対応したものとす。 (1・2年の2学期までは基礎力診断テスト、1・2年の3学期は実力診断テスト、3年生は実力判定テストを実施) その結果、より現実的な数値を見極めることで、進学指導に活かしていく。(新規)</p> <p>イ 進学希望者に対して、曜日を固定して各教科で講習ができる体制を構築し、学習と部活動を切り離して、学力保障をはかれるシステムとする。また、教員が積極的に講習を実施できる曜日を設定し、校内一致した体制とする。(新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSL(島本スタディラボ)については、開設2年目に入り、活動場所の確保と指導体制の充実をはかり、1・2年生を主により活動を強化する。(継続) ・成績不振者に対する指導体制を明確化し、考査前指名補習に加えて、放課後の特別補習等もできるような環境を構築する。結果として、年度末において、成績不振科目を抱えている生徒の減少を図り、このことで中退の数も減少させる。(継続) <p>ウ 1年から各学期で進路集中講座を実施することで、進路意識を向上させ、早い段階から志望校を絞り込めるようにする。(新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の総合的な学習の時間等を用いて、1学期に集中的にガイダンスを設定し、3年早期での進路に対する意識の向上をはかる。(新規) ・1年生から将来について考える仕組みを総合的な学習の時間を活用して設定し、将来を見つめる正しい目を育成する(継続) <p>エ 学外実習、高大連携事業を通して、保育系への進学の幅を広げ、広い視野で保育者への道を探れる体制を構築する。(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育系の公立高校で集う生徒交流会を実施し、情報を共有することで、保育者への夢を膨らませ、目的意識を共有し、進学意識の高揚をはかる。(新規) 	<p>(3) ア 2・3年生に対しては、過去のデータを基に、診断結果の低下を防ぐ。(H28:1年・59.3%、2年54.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生に関しては、新しい診断テストを活用し、過去の数値と比較しながら、傾向をはかり、指導方法を明確化する。(新規での取組みのため平成28年度実績なし) <p>イ 週2日ノー会議デーを設定し、そのうち1日を講習日と重ね、部活動開始時間を調整し、講習に参加しやすくし、SSLへの参加者数を述べ15名以上、常時10名とする。(H28SSL参加者数述べ10名、常時5名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自習室とSSLの場所を区別し、目的を明確にすることで、各学年10名以上の参加者を維持する。(H28:述べ10名、常時5名) ・成績不振者数を10%減少させる。(H27:159名、H28:179名) ・中退数について、10%以上の減少をはかる。(H27:48名、H28:24名) <p>ウ 早期に進路に関する情報を示すことで、進路の情報を知らせてくれるとする割合を70%以上とする。(H27:68.5%、H28:55.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を行うことで、最終的に3年生卒業時には未定者の数を10%以下にする。(H27:9.8%、H28:7.5%) <p>エ 保育系指定校の数を維持するとともに、保育系への進学者数の割合を85%以上とする。(H27:61%、H28:74%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度途中で本校主催の保育発表会を実施することで、府下の保育系希望者との情報交流の場を設ける。多くの参加者を募ることで、全大阪で保育者の育成を図ることができ発表会とする。そのうえで、他校からの参加者数を確保する。(平成28年度教員1名、生徒0名の参加) 	<p>(3) ア 学力診断テストの枠組みを修正し、分析自体が変更となるため、実施1年目の取組みである。診断結果については、上位層の維持を図りながら、目的意識を持てるよう、今後も分析をしていくことが課題である(△)。(H28:1年59.3%・2年54.2%、H29:1年47.1%、2年55.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の結果が出ることから、1月実施の内容を精査しながら、今後分析を進めていく必要がある(△)。 <p>イ 週2日のノー会議デーの実施により、講習日と部活動の兼ね合いは上手く実施できた。(部活動開始時間を遅らせることで、部活動生徒が講習に参加しやすい状況を構築できた) 反面SSLへの参加者数は延べ13名、常時4名とあまり人数的な伸びは期待できなかった(△)。(H28:SSL参加者数述べ10名・常時5名、H29:SSL参加者数述べ13名・常時4名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自習室とSSLの場を区切ることで、学習集団の明確化を図ることはできた。しかし、自習室等の活用に関しては、9名に留まった(△)。(H28:述べ10名・常時5名、H29:述べ9名・常時2名) ・成績不振者講習も軌道に乗り、一定の成果を見せている(△)。(H28:179名、H29:172名) ・中退者数については、年々減少している。高校卒業に対するモチベーション及び不振科目の克服により減少しているものの、不登校生徒に関しては中退からの進路変更が難しく、一定数の中退者数が残ってしまった(○)。(H27:48名、H28:24名、H29:33名) <p>ウ 1学期末及び2学期末に1・2年生では進路集中講座を実施することが軌道に乗り、情報を知る機会が増えた。そのため、進路に情報を知らせてくれるとする割合も増加した(△)。(H27:68.5%、H28:55.5%、H29:59.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の卒業時における未定者数は、各教科での働き方や職業観の育成が功を奏し、10%以下を維持することができた(○)。(H27:9.8%、H28:7.5%、H29:6.1%) <p>エ 保育専門コース選択者が2年継続で保育を学ぶことで、保育系への意識向上が図られたことで、一定数の保育系への進学者数となっている。なお、家庭事情により保育系進学から就職へ進路変更するものもいるため、100%は厳しい状況である(△)。(H27:61%、H28:74%、H29:73%(27/37))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28年度の反省を生かし、保育系交流会実施を2月実施から12月実施へと変更し、合わせて私学合同ガイダンスも同時開催した。その結果、各私大からの協力も得られ、成功裏に終わることができた、各私大からの評価もよく、次年度に繋がる内容であった(○)。(H29:参加私大12校・教員3名・生徒5名の参加、H28:私大0校・教員1名の参加)

府立島本高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
2 生徒指導の充実 (規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ)	<p>(1) 生徒指導体制の更なる充実 ア 頭髪指導の更なる充実 (継続)</p> <p>イ 服装指導の更なる充実 (継続)</p> <p>ウ 遅刻指導・中抜け指導の更なる充実 (継続)</p> <p>エ 授業規律の徹底と中退防止 (継続)</p> <p>オ 納得感のある指導の徹底 (新規)</p> <p>カ 人権教育の推進 (新規・継続)</p> <p>キ 社会人としてのスキルを身につけさせる (継続)</p>	<p>(1) ア 現在の頭髪指導を継続しながら、丁寧に説明を行い、違反を繰り返す場合には特別指導により、規律を守るようにする。(継続) ・染色だけに限らず、パーマにも目を向け、統一した指導のもと、生徒・保護者が理解、納得できる指導を行う。(継続)</p> <p>イ 平成 28 年度入学生から変更した制服 2 年目に入り、継続して着こなす指導を行う。女子のスカートの丈が短くならないようにし、また装飾品についても継続して徹底し、高校生らしい身なりとなるようにする。加えて、カラコン等についても触れ、健康について考える機会を設ける。(継続)</p> <p>ウ 登校遅刻に関しては 10,000 件以下を維持することはもちろん、更なる減少をめざす。繰り返し登校遅刻や中抜けを繰り返す場合には、家庭と連携しながら、特別指導を実施する。(継続)</p> <p>エ 授業開始時における指導を通して、休み時間と授業時間のメリハリを持った取り組みを行う。机上整理、携帯電話指導を全校で行うことで、学習内容を定着できる授業環境を整備する。(継続) ・授業力向上の取り組みと並行して、授業改善を行い、授業中に騒がしくする生徒の指導を徹底し、不振科目所持者を減少させることで、あわせて中退者の減少をはかる。(継続)</p> <p>オ 一般的な指導の中で、「なぜ」に注目し、生徒や保護者がなぜ守らなければならないのかをしっかりと説明したうえで、徹底した指導を行う。場合によっては、生徒会と連携しながら「服装に対する規律」「ゴミ捨てマナー」などについて、考える場面を設ける。(新規)</p> <p>カ 1 年から 3 年まで系統的に他者に対して理解しようとする取り組みを推進する。各学年で定期的に人権学習の機会を設け、3 年間で 3 つのテーマを学べるようなシステムを構築する。(新規) ・最近問題事象として多くなっている SNS について考える機会を設けることで、ネット上でのトラブル減少をはかる。(新規)</p> <p>キ 1 年から政治的素養を育む教育を計画的に実施することで、社会人としてのスキルを 3 年間を通して育成する。とりわけ、総合的な学習の時間及び現代社会の時間を通して、働くことの意義や選挙権について意味と仕組みを理解する。(継続) ・総合的な学習の時間において、3 年生で社会人としての課題に取り組み、責任を持って課題発表ができるようにする。(新規)</p>	<p>(1) ア 頭髪に関しては、染色「ゼロ」を維持し、特に地毛登録した生徒や周りの生徒・保護者が納得でき、生徒指導方針に共感できる割合を生徒 60% 以上、保護者 70% 以上とする。(生徒 H27:53.3%、H28:37.5%、保護者 H27:65.6%、H28:61.1%) イ 女子のスカート丈に関しては、1・2 年生で守られている割合を 100% に近づける。装飾品についても、取り上げ数 10% 減少をめざす。(H28: 指導件数 218 件、指導人数 130 名) ・カラコン等に関して、健康を考える機会を複数回設け、自ら意識できるようにし、指導者「ゼロ」とする。 ウ 校内における生徒指導上の回数減少で自覚を促し、特別指導件数の 10% 減少をめざす。(H28:37 件) ・引き続き登校遅刻数については 10,000 以下として 10% の減少をめざす。(H27 延:9,736 名、H28 延:8,550 名) エ 成績不振科目所持者を減少させ、中退者の数を 10% 減少する。(H27:48 名、H28:24 名) ・授業規律を維持することで、授業が分かりやすく楽しいとする割合を 70% 以上とする。(H27:51.3%、H28:38.8%) オ 生徒に理由をしっかりと説明し、生徒指導に共感できる割合を生徒 60% 以上、保護者 70% 以上とする。(生徒 H27:53.3%、H28:37.5%、保護者 H27:65.6%、H28:61.1%) ・生徒会による規律活動、ルール遵守に関する取組みを年に 2 回以上実施する。(新規取組のため H28 実績なし) カ 全校人権学習については引き続き年 1 回実施する。障がい者理解、部落問題、ヘイトスピーチ、言葉に関する事柄を学年に応じて取組む。(新規取組のため H28 実績なし) ・人権について学ぶ機会があるとする割合を 65% 以上とする。(H27:62.6%、H28:53.5%) ・SNS に関する知識を深めることで、Twitter や LINE での問題事象を「ゼロ」とする。(新規取組のため H28 実績なし) キ 3 年間を通して、政治的素養を計画的に身につけ、模擬投票において自主的に 75% 以上の生徒が投票できるようにする。(H28: 模擬投票における自主投票率、およそ 70%) ・3 年生については、進路未定者数 (予備校を除き) を 10% 未満とする。(H27:9.8%、H28:7.5%)</p>	<p>(1) ア 頭髪に関しては、染色「ゼロ」を維持できた。指導に共感できる割合に関しては、依然として生徒で低い数値である。更に、説諭を含めて根気を持って指導にあたっていくことが課題である (△)。 (生徒 H27:53.3%、H28:37.5%、H29:41%、保護者 H27:65.6%、H28:61.1%、H29:61.9%) イ 女子のスカート丈に関しては、3 年生を除き次年度完成年度となるが、1・2 年生に関しては制服が一定落ち着いている。装飾品指導に関しても、2 年目に入り指導に係る生徒の数は落ち着いてきたのが現状である (○)。(H28: 指導件数 218 件・指導人数 130 名、H29: 指導件数 176 件・指導人数 118 名) ・カラコンに関しては、健康を月間目標として 1 月に意識調査を実施している (△)。(H29: 指導 0 件) ウ 定員割となった関係上、1 年生で生徒指導上の回数が増加傾向にある。十分な指導時間を設けることで、更なる指導の増加を防ぐ必要がある (△)。(H28:37 件、H29:48 件) ・登校遅刻については、年々減少してはいるものの、定員割の影響が出ている。1 年生で増加傾向があるため、大幅な減少とはならなかった (△)。(H27 延:9,736 名、H28 延:8,550 名、H29 延:7,177 名) エ 成績不振者補習の充実により一定の成果を見せているが、結果的に中退数減少につながらなかった (△)。(H27:48 名、H28:24 名、H29:33 名) ・授業充実会議や新学習指導要領に係る研修を通して、授業改善を図ることにより授業が分かり易いとする割合が増加した (△)。(H27:51.3%、H28:38.8%、H29:42.2%) オ 懲戒等指導に係る生徒に対しては、内容を十分説明し納得感を持たせている。また、服装や頭髪に関しても定期的な指導を通して、段階を踏んだ指導を行っているが、十分な納得感を得られるまでは至っていない (△)。(生徒 H27:53.3%、H28:37.5%、H29:41%、保護者 H27:65.6%、H28:61.1%、H29:61.9%) ・生徒会による規律活動に関しては、服装移行期において全校集会で 1 度実施した。なお、定期的に朝の挨拶運動で正門前での活動はあるものの、抜本的な活動までは至っていない (△)。(H29: 1 回) カ 全校人権学習は、人権を意識した落語家による講演を実施し、社会的弱者に対する理解を深め、大方の生徒が共感的に受け止めていた。特に障がい者理解教育に力を入れ、1 年生では車椅子バスケット日本代表、車椅子のキャプテンから講演を頂き好評であった。更に深めたい (○)。(H29: 他者理解 1 回・障がい者理解 3 回) ・各学年での人権に対する取組みを各学期 1 回に増加したこと及び年度当初に 2 時間の人権映画鑑賞を設けることで、若干の意識向上が図れた (○)。(H27:62.6%、H28:53.5%、H29:65.1%) ・SNS 研修については、特にスマホの活用に関する研修を 1 年生及び 3 年生対象に行った。思わぬ落とし穴に気づくことができたが、SNS を利用した問題はゼロにすることはできなかった (△)。(H29: 7 件) キ 政治的素養を育む教育として、生徒会役員選挙を実践の場として実施した。町選挙管理委員会からも投票箱を借り上げ、また投票用紙も実際のものを活用して実施した、自主投票としたものの、比較的高い投票率を得ることができた (○)。(H28:70%、H29:87%) ・総合的な学習の時間で「社会探究」と題して、社会人を意識した取組みを行った。仮想企業での問題等を取り扱うことで、進路を考える機会となった (○)。(H27:9.8%、H28:7.5%、H29:6.6%(15/229))</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																																												
<p>2 生徒指導の充実（規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ）</p>	<p>（2）月間目標の設定と自己肯定感の育成 ア 学年に応じた月間目標の設定と施策の構築（継続）</p> <p>イ 分掌毎で目標に即した研修の実施（継続）</p> <p>ウ ボランティア活動の見える化をはかる（新規）</p>	<p>（2） ア 各学年が時期に応じた目標を設定し、その結果について目に見える形で示し、生徒の自己顕示欲の向上をはかる。また、自尊心を育成する。（新規・継続）</p> <table border="1" data-bbox="491 409 1045 893"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td colspan="3">挨拶をしよう(生徒生活部)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>授業を大切にしよう(学習情報部)</td> <td></td> <td>進路を考えよう(進路指導部)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td colspan="3">遅刻をしないようにしよう(生徒生活部)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td colspan="3">基本的な生活を振り返ろう(生徒生活部)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td colspan="3">文化祭を成功させよう(行事企画部)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>社会の構造を理解しよう(進路指導部)</td> <td>リーダーを自覚しよう(行事企画部)</td> <td>多様性について考えよう(生徒支援会議)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td colspan="3">将来について考えよう(進路指導部)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td colspan="3">人権について考えよう(生徒支援会議)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td colspan="3">健康管理に努めよう(生徒生活部)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>進級について考えよう(進路指導部・学習情報部)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・各分掌で各月に対する具体的な目標を設定し、生徒が取り組める工夫を行う。（継続） ・各月の取り組みに対し、月間表彰を全校集会等で実施する。（新規）</p> <p>イ 各分掌で最低1つ研修計画を立てて職員研修を実施する。 ・生徒生活部（生徒指導・保健） ・学習情報部（授業充実・教育課程） ・進路指導部 ・行事企画部 ・生徒支援会議 ・人権関係 ・若手リーダーによる研修</p> <p>ウ 生徒会が中心になりながら、通常行っているボランティア活動について視覚化をはかり、意識の向上をはかる。（新規） ・全校人権学習に招へいしている講演者に関わる活動に特化し、連携した取り組みを行う。また、取り組みを継続している各団体に対しては、機会を設けて活動報告を行う。（新規）</p>	月	1年	2年	3年	4	挨拶をしよう(生徒生活部)			5	授業を大切にしよう(学習情報部)		進路を考えよう(進路指導部)	6	遅刻をしないようにしよう(生徒生活部)			7	基本的な生活を振り返ろう(生徒生活部)			9	文化祭を成功させよう(行事企画部)			10	社会の構造を理解しよう(進路指導部)	リーダーを自覚しよう(行事企画部)	多様性について考えよう(生徒支援会議)	11	将来について考えよう(進路指導部)			12	人権について考えよう(生徒支援会議)			1	健康管理に努めよう(生徒生活部)			2	進級について考えよう(進路指導部・学習情報部)			<p>（2） ア 各月に目標設定した内容について、内容に関連する項目平均値を60%以上とする。（H27:51.6%、H28:48.9%）</p> <p>・具体的な目標設定に対する到達度を評価し、各クラス別表彰を実施する。（新規取組のためH28実績なし）</p> <p>イ 月平均で1回程度は教職員研修を実施する。</p> <p>ウ ペットボトルキャップ回収について、今まで以上に取組み状況を報告し、回収率の向上をはかり、10,000個以上を回収する。（H28:8,600個） ・全校集会等を通して、各団体に対するボランティア活動を通し取組活動を全校集会で報告し、場合によっては活動成果に関わる贈呈式を実施する。（新規取組のためH28実績なし） ・ボランティア活動を通じて、生徒会活動に積極的に参加しているとする割合を50%以上とする。（H27:29.4%、H28:23.7%）</p>	<p>（2） ア 各月の目標に関しては、今年度は表彰も兼ねて行ったが、表彰を行った月に関してはモチベーションが高く効率的に進めることができた。今後、月間目標がマンネリ化しないように工夫していく必要がある（△）。（H27:51.6%、H28:48.9%、H29:55.2%）</p> <p>・全校集会での表彰を実施することで、クラスでの表彰結果を共有することで、モチベーションが高く、落ち着いた雰囲気となったクラスもあった（○）。</p> <p>イ 教職員研修については ・生徒生活部 AED講習 ・学習情報部 評価に関わる研修 ・進路指導部 成績分析 ・行事企画部 熱中症対策研修 ・生徒支援会議 障がいに関わる研修 ・人権関係 多文化理解 元少年兵の講話 ・若手リーダーによる研修 実施なし と6回実施した。他に授業充実に向けて、年3回の公開授業に合わせて3回の研究協議及び初任者に関わる授業研究協議を2回実施し、全部で11回の研修及び協議を実施した。（○）</p> <p>ウ ペットボトルキャップに関しては、毎月掲示板に回収数を掲示し意欲向上につなげた。また、多文化理解に関わる活動支援を目に見える形で行った（○）。（H28:8,600個、H29:16,705個） ・H28に人権研修で実施した少年兵に関わる団体への支援活動を目に見える形で実施し、全校集会時に贈呈式を実施した（○）。（H29:3月実施予定） ・校内緑化に関わる花壇への水やりなど視覚化できる看板を設置し、ボランティアの帰属意識を高めた（△）。（H27:29.4%、H28:23.7%、H29:26.9%）</p>
	月	1年	2年	3年																																												
4	挨拶をしよう(生徒生活部)																																															
5	授業を大切にしよう(学習情報部)		進路を考えよう(進路指導部)																																													
6	遅刻をしないようにしよう(生徒生活部)																																															
7	基本的な生活を振り返ろう(生徒生活部)																																															
9	文化祭を成功させよう(行事企画部)																																															
10	社会の構造を理解しよう(進路指導部)	リーダーを自覚しよう(行事企画部)	多様性について考えよう(生徒支援会議)																																													
11	将来について考えよう(進路指導部)																																															
12	人権について考えよう(生徒支援会議)																																															
1	健康管理に努めよう(生徒生活部)																																															
2	進級について考えよう(進路指導部・学習情報部)																																															

府立島本高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
3 地域連携と開かれた学校づくり	(1) 信頼され愛される学校づくりの推進 ア 学校行事の更なる推進 (継続)	(1) ア 体育祭、文化祭運営を生徒会が中心になって行うことで、自らが積極的に行事を組み立てていることを自覚させる。また、部活動加入生徒を積極的に行事参加させ、生徒が主体的に活動できる活気のある学校とする。(継続)	ア 生徒が積極的に行事に関わることで、行事は楽しく行えるように工夫されているという割合を70%以上にする。 (H27:67.3%、H28:55.4%)	(1) ア 各種行事の内容(体育祭や文化祭)に関して新種目の導入や応援合戦の変更など、生徒の活躍できる場を創出し、団結力の向上とリーダー育成を図った(△)。(H27:67.3%、H28:55.4%、H29:59.2%)
	イ 生徒会活動の充実と中高連携の更なる推進(新規・継続)	イ 生徒会の主体的な取り組みにより、ボランティア活動の活性化をはかる。また、積極的に中学校に対して本校をPRする機会を設ける。(継続) ・学校リーフレットやポスターを生徒会役員や部活動加入生徒を中心に中学校へ持参し、生活の様子について報告できる機会を設ける。(新規)	イ 中学生対象の学校説明会に積極的に生徒が参加し、生徒発信の学校説明を実施する。6回学校説明会を実施し、半分以上に生徒参加する。(H28は5回の説明会中2回に生徒参加) ・最低1回は生徒会役員や部活動生徒が中学校へ戻る機会を設ける。(新規取組のためH28実績なし) ・生徒会活動に積極的に参加しているとする割合を40%以上とする。(H27:29.4%、H28:23.7%)	イ 中学校対象説明会(オープンスクール)を年6回、他に高槻・島本地区教員対象説明会、高槻・島本地区合同説明会、府立学校フェアへ参加し、9回中5回に生徒会が参加し、好評であった(○)。(H28:2回/5回、H29:6回/9回) ・生徒会役員や部活動生徒が中学校へ戻る機会については、積極的な取組みとはならなかった。部活動生徒数の伸び悩みや生徒会活動活性化に向けた取組みのため、十分な時間を活用できなかった(△)。(H28:実績なし、H29:実績なし) ・各種行事等での変更や、生徒向け部活動研修などを計画・実施したが想像以上に関心が向けられなかった(△)。(H27:29.4%、H28:23.7%、H29:26.9%)
	ウ 地域連携の更なる推進(継続)	ウ 本校発信の地域総合型スポーツクラブとの連携を強化し、新たな活動を実施する。また、地域での催事については、数多く出演する機会を設けて頂き、本校部活動生徒の出演機会を創出する。(継続)	ウ 平成28年度2クラブで実施したキッズ教室を継続実施しながら、新たな活動を1つでも追加して実施し、地域の人たちの来校する機会を増やす。(H28:キッズテニス、キッズバレーの実施)	ウ キッズ教室に関しては、テニス・バレーは継続実施をすることができた。また、夏には「夏休み理科実験教室」を小学生対象で実施し好評であり、想像以上の応募があった(○)。(H28:2クラブにて実施、H29:2クラブ+理科)
	(2) 中高連携の更なる推進 ア 中学校訪問の充実(新規・継続)	(2) ア 各学期で中学校訪問を行い、在校生情報の共有をはかる。また、問題事象の共有をはかり、中学校時代の問題を把握することで、中退防止につなげる。(継続) ・本校保育専門コース及び変更点について、積極的に中学校訪問で説明し、理解を求める。(継続) ・中学校訪問を通して、出前授業等を行える環境を創出し、本校教員による出前授業の充実をはかる。(新規)	(2) ア 中退者数30人以下として、10%の減少をはかる。 (H27:48名、H28:24名) ・全教員で分担しながら中学校訪問を行うことで、1校でも出前授業が実施できるようにする。(H28:島本町内中学校3年生への体験授業を実施)	(2) ア 各学期における中学校訪問では、在校生情報が特に好評で、毎学期生徒の状況を伝えることで関心を持って話を聞いてもらえる環境となった。問題を抱える生徒情報も共有することで、適切な指導ができる場面も増えた(○)。(H27:48名、H28:24名、H29:33名) ・町内の中学3年生に対する体験授業は継続的に実施できた。他に、小学校教員対象新体力テスト指導など町内での指導的な役割を担うことができた。進路についての講演依頼も町内中学校の他に2校から寄せられた(○)。(H28:町内2中学校、H29:町内2中学校+町外2中学校+町内4小学校)
	イ 中高連絡会の継続と情報提供の推進(継続)	イ 中高連絡会を継続的に実施することで、本校生徒の状況把握をはかり、中退防止に努める。(継続)	イ 中退者数30人以下として、10%の減少をはかる。 (H27:48名、H28:24名)	イ 中高連絡会は定期的に各市進路保障協議会と調整することで適切に実施できている。他に、高槻市内の中学校との連絡協議会も本年度新たに高槻市内の高校と連携して実施した(○)。(H27:48名、H28:24名、H29:33名)
	(3) 開かれた学校づくりの推進 ア 広報活動の更なる充実(新規・継続)	(3) ア HPでの生徒会ブログの強化をはかり、積極的に本校での活動を発信する。また、生徒が中学校訪問する際に、生徒会通信を発行し、取り組みについて掲示等の協力を依頼する。(新規) ・現状の本校の様子を見てもらえる機会を創出するため、保育専門コース生を中心に学外での活動を強化する。(継続)	(3) ア 最低1回は生徒による母校への中学校訪問を実施する。(受験者数の増加) ・学外での発表会や公共施設でのイベントを催し、活動を通して本校生を見てもらう。 (H28:イオン茨木での子どもまつり)	(3) ア HPにおいてはブログの強化を図り、現在「校長」「生徒会」「就職」「野球」「サッカー」で運用を行っている。それぞれの活動を紹介することで、興味・関心を惹かれるよう工夫している(○)。また、生徒が最低1回は母校への中学校訪問を実施する点については、実施することができなかった(△)。 ・保育専門コースイベントについては、H28年度の「イオンモール茨木での子どもまつり」の他、大阪人間科学大学での私大合同ガイダンス、保育系交流会など外部のものを増加し、他校からの参加も募り実施できた(○)。(H28:イオン茨木での子どもまつり、H29:イオン茨木での子どもまつり+私大合同ガイダンス+保育系交流会)
イ PTA活動の更なる活性化(新規)	イ 保護者が更に本校に足を運んでももらえる機会を創出し、本校の活動を理解してもらえるようにする。また、保護者と一体となった活動を展開する。(新規)	イ PTA発信のイベントを最低1つ以上実施する。 (H28:新規事業1増加) ・活動を通して、PTA活動が活発であるとする割合を75%以上とする。(H27:66.1%、H28:70.9%)	イ PTA活動に関しては、「笑い文字講座」「校内ソフトバレーボール大会」など新規事業を立ち上げ参加しやすい環境とした。また、PTA通信を発行し、活動の視覚化を図った(○)。(H27:66.1%、H28:70.9%、H29:73.9%)	
ウ 自己診断を活用した学校改善の推進(継続)	ウ 学校協議会での意見聴取を更に進め、学校運営に反映できるようにする。(継続) ・PTAと協力しながら生徒を支援できる活動を推進する。(継続)	ウ 学校協議会を通して広く意見を聴取し、生徒が楽しく生活できる学校をめざし、楽しいとする割合を70%以上とする。 (H27:68.5%、H28:58.5%) ・PTAと協力して、生徒支援活動を1つ以上実施する。 (新規取組のためH28実績なし)	ウ 学校協議会における意見をできるだけ吸い上げ、経営方針の中に盛り込んだが、学校が楽しいとする割合の大幅上昇には繋がらなかった(△)。(H27:68.5%、H28:58.5%、H29:59.8%) ・PTAと協力した「緑化事業」「炊出し活動」「挨拶運動」「清掃活動」を実施し、生徒が活動しやすい環境を整えた(○)。(H29:11回・清掃活動2/花植1/炊出し1/挨拶運動7)	